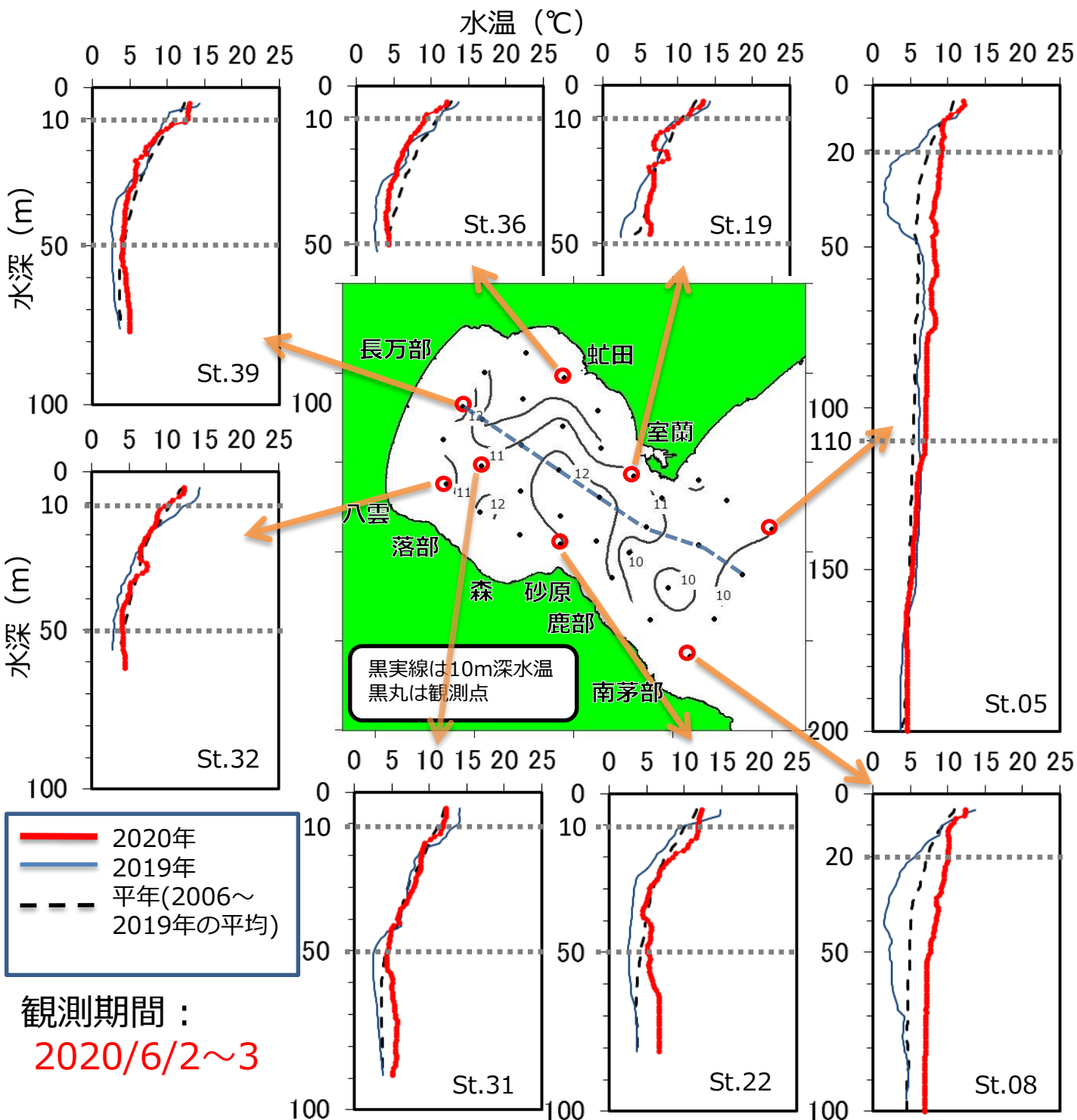


2020年6月2日～3日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・流向流速の観測結果についてお知らせします。  
 (函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

## 【水温の鉛直分布】

湾内の10m以浅は、St.36を除き11～13℃と平年並みからやや高めとなっています。10～50mは概ね平年並みですが、St.36は全層で平年よりも低くなっています。一方、St.22の50m以深と湾外の20～110mは平年よりも2～3℃高くなっています。これは比較的高温な津軽暖流水(図2)の影響と考えられます。



観測期間：  
**2020/6/2～3**

図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布と10m深における水温の水平分布

## 【水温，塩分の鉛直断面分布…5月と6月の比較】

6月の深度20m以浅は，水温10℃以上，塩分32.0以下で，5月に比べ高温・低塩分化していました。湾口部の深度20~30mには，顕著な水温と塩分の躍層が見られます。一方，湾内の深度40m以深は，両月ともに水温5℃以下，塩分32.6以上で大きな変化は見られません。また，5月に湾外に見られた津軽暖流水（水温6℃以上，塩分33.6以上）は，6月には湾口部にまで分布を広げていました。

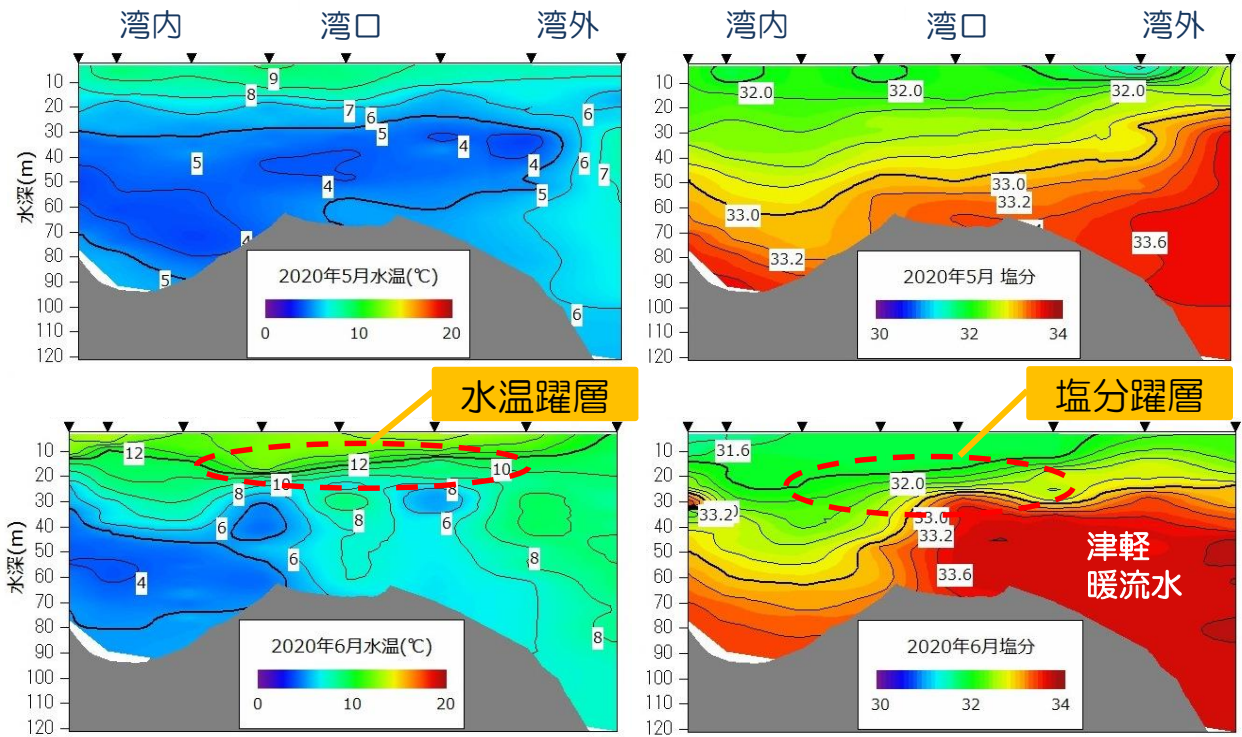


図2 水温・塩分の鉛直断面図（上段：5月，下段：6月）  
鉛直断面の位置は図1の青破線を参照 上部の▼は観測点

## 【流向流速（流れ）の分布】

5月に引き続き，湾内の表層には時計回りの渦が形成されていました。また，湾口部には湾内から湾外へと流出する反時計回りの流れが見られます。時計回りの渦が長期間続くと表層水が渦の中心に寄せられます。その結果，表層水の厚みが増し，水温の等値線は下に凸のお椀状になります（図4）。このため，同じ深度でも渦の縁辺部の水温は中心部よりも低くなります。図1のSt.36の水温が低かったのは，調査点が縁辺部に位置していたためと考えられます。

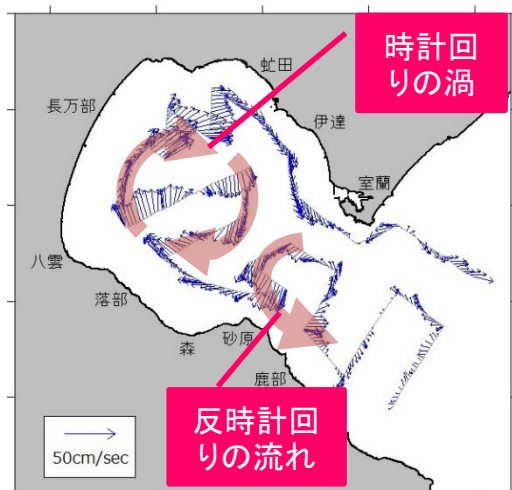


図3 流向流速図（深度13m）

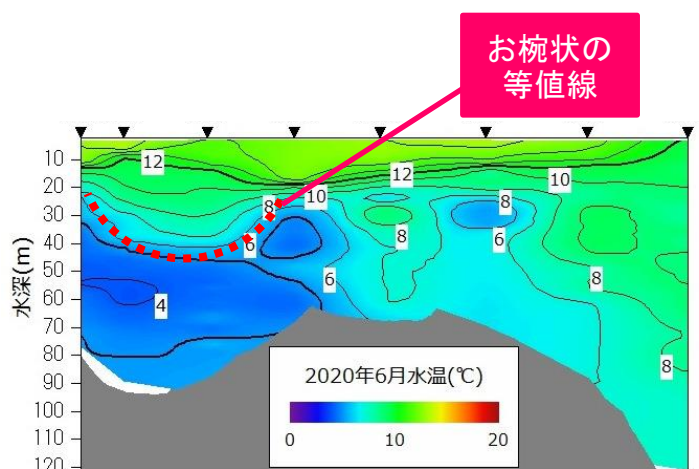


図4 水温の鉛直断面図  
鉛直断面の位置は図1の青破線を参照